



日	曜	【令和8年2月】学校行事等
1	日	全商商業経済検定試験
2	月	40分授業 健康観察 スクールカウンセラー来校日
3	火	各種委員会(昼休み) 列車通学生アンケート
4	水	語の日 全校集会(3年生から在校生へ) 3年生登校日
5	木	漢字テスト⑮
6	金	全校朝礼(歌唱指導) スクールソーシャルワーカー来校 人権・同和教育 HR活動(1・2年)
7	土	大学共通テストマーク模試(2年)
8	日	
9	月	授業公開[~13日] 40分授業 校納金口座振替日 スクールカウンセラー来校日
10	火	3年生登校日
11	水	建国記念の日
12	木	合同企業説明会(仮1・2年) PTA 役員会③(19:00)
13	金	学年末考査発表(1・2年) 全校朝礼(歌唱指導)
14	土	
15	日	
16	月	スクールカウンセラー来校日
17	火	語の日
18	水	3年生登校日 人権の窓発行
19	木	交通安全街頭指導 家庭学習時間調査⑮[~26日] 進路課通信発行
20	金	学年末考査(1・2年) 創立記念日
21	土	長高水族館一般公開日
22	日	
23	月	天皇誕生日
24	火	長高だより発行
25	水	3年生登校日
26	木	
27	金	同窓会入会式 卒業式予行
28	土	

※予定は変更になる場合があります。御了承ください。

二つの水槽から始まった物語

進路指導課長 重松 洋

私が長浜高校に最初に赴任してから、今年で31回目の春を迎える。新採2校目として長浜高校に赴任した当時、生物教室には二つの水槽が置かれていた。だが、その中に水はほとんどなく、管理されているとは言い難い状態で、泥の上を何かが這っていた。近づいてよく見ると、それはメダカだった。

「生物教室が、こんなんじゃいかん。」

そう強く思い、自腹で水槽を購入し、少しずつ数を増やしていく。当時は独身で、比較的自由に使えるお金があったことも背中を押した。自然科学部(現・水族館部)の生徒たちも、その思いに共感してくれた。気が付けば、生物教室は水槽であふれるようになっていた。やがて文化祭で、生物教室を「水族館」として公開することになった。校内の一角に生まれた、手探りのささやかな試み。それが「長高水族館」の始まりである。

生物教室に芽吹いた小さな水族館は、ゆっくりと、試行錯誤を重ねながら、しかし確実に成長していく。その歩みの節目節目には、必ず多くの方々の支えがあった。水槽は隣の教室へと広がり、水族館専用の部屋が誕生した。中庭には、大洲市の支援によりタッチプールが設置され、生き物と触れ合える場が生まれた。追加で大型水槽が導入され、ハマチショーも実現した。

紆余曲折がなかったわけではない。赴任10年目の私は、何の前触れもなく、突然の転勤を言い渡された。私と共に水族館を支えた松本教諭からずいぶん後になって聞いたが、トラブル続きで水族館をたたむことを、現実的な選択肢として真剣に考えたそうだ。私は、4年後にカムバック。再び長高水族館に関わることになった。水族館は年々成長していたが、少子化の波には抗えず、長浜高校は常に分校化の危機と隣り合わせだった。2年連続で入学者数が41人を切り、まさに崖っぷちの長浜高校は、本格的に全国募集を開始した。そして部員数が急増。今度は部員が教室に入りきれない事態となった。施設も老朽化し、ポンプの故障でハマチが全滅するという、胸が締めつけられる出来事もあった。手を差し伸べてくれたのは大洲市だった。こうして長高水族館は、大洲市長浜保健センターへと移転した。

現在、長高水族館には、様々な色や形の花が咲き始めている。活動の幅は広がり、生徒一人一人が、それぞれの役割を見つけながら前に進んでいる。部員たちが掲げる目標は、「100年続く水族館」だ。

しかし、私がこの学校に勤務できるのは、最長でもあと7年。私の最後のミッションは、次の世代へ、確実にバトンを渡すことだ。これまでと同じように、長高水族館は本当に困ったときにこそ救世主が現れ、形を変えながら進化を続けていく。私は、心からそう信じている。